

# 公立阿伎留医療センター

## 障害のある患者さんの権利

本憲章は、国連「障害者権利条約(CRPD)」、障害者差別解消法、日本の意思決定支援指針、世界医師会ヘルシンキ宣言、WHO/UN の人権文書の理念に基づき、障害のある患者さんの権利を次のとおり定めます。

### 第1条 尊厳と平等の権利

#### 1.1 すべての人は、固有の価値を持つ個人である

障害の有無・種類・程度にかかわらず、人格と尊厳を尊重される権利があります。

引用:CRPD 第3条(一般原則)

「個人の尊厳・自律・固有の尊厳・平等」

#### 1.2 障害を理由とした差別の禁止

医療内容・医療アクセス・説明の質・対応において、障害を理由とする差別は認められません。

引用:障害者差別解消法 第1条

「不当な差別的取扱いの禁止」

### 第2条 意思・選好(Will & Preferences) が尊重される権利

#### 2.1 “自己決定能力の有無”ではなく、“意思をどう引き出すか”が原則

すべての人は意思 (will) と選好 (preferences) を持ち、それを最大限尊重されます。

引用: CRPD 第 12 条 (法的能力の平等)

「すべての障害者は他の者と平等に法的能力を有する」

## 2.2 意思を多様な方法で表現できる権利

- ・言語
- ・手話
- ・筆談
- ・点字・触覚
- ・絵カード・写真
- ・コミュニケーションボード
- ・デバイス (iPad 他)

など、どの方法でも意思表出として尊重されます。

---

# 第 3 条 わかりやすい説明を受ける権利 (Information Accessibility)

## 3.1 情報保障を受ける権利

障害特性 (視覚・聴覚・知的・発達・精神・肢体) に応じて、

- ・ やさしい日本語
  - ・ 手話通訳
  - ・ 点字・拡大文字
  - ・ ピクトグラム
  - ・ 読み上げ
- を選ぶことができます。

## 3.2 理解を助けるための段階的説明

不安を減らすため、手技・痛み・目的・選択肢を段階的に説明する権利があります。

引用:CRPD 第 21 条(表現及び意見の自由)

「情報を利用し、伝達するための手段を選ぶ自由」

---

## 第 4 条 合理的配慮を受ける権利

### 4.1 医療の場面で障害に応じた柔軟な支援を受ける

診察、検査、入院生活、治療の説明、環境調整について次の配慮を受ける権利があります：

- 待ち時間の緩和
- 刺激の少ない環境（音・光）
- 本人のペースで進める
- 身体介助
- 不安の強い方への事前準備

引用:障害者差別解消法 第 7 条

「合理的配慮の提供」

### 4.2 精神的安全性の確保

見通しを伝える、突然触れない等、心身の安全を守る配慮を受けられます。

---

## 第 5 条 不必要な行動制限から守られる権利

### 5.1 医療上やむを得ない場合を除き、拘束・隔離を避ける権利

引用:CRPD 第 14 条

「自由の剥奪は障害の存在のみに基づいて行われてはならない」

## 5.2 やむを得ず制限する場合にも:

- 最小限の方法
  - 最短時間
  - 目的の明確化
  - 本人・家族への説明
  - 記録の徹底
- が義務づけられます。

---

# 第 6 条 医療に家族・支援者と共に参加する権利

## 6.1 支援者の同席を選べる権利

家族、信頼できる人、権利擁護者、意思決定支援者と共に診療を受けることができます。

## 6.2 代理決定は“本人の価値観”にもとづくこと

引用:CRPD 第 12 条

「意思決定の支援は、本人の意志及び選好の尊重に基づくこと」

---

# 第 7 条 痛み・苦痛・不安を最小限にする配慮を受ける権利

## 7.1 痛みの評価と対処

痛みを表現しにくい患者さんでも、観察尺度などを用いて丁寧に評価し緩和されます。

## 7.2 感覚過敏・不安の強さに対応する医療調整

発達障害・精神障害・認知症などの特性に合わせ、刺激や負担を最小限にする工夫が必要です。

---

# 第 8 条 プライバシーと個人情報が守られる権利

## 8.1 身体的・心理的プライバシー

検査や処置の場でも尊厳を守る配慮が必要です。

引用:CRPD 第 22 条(プライバシーの尊重)

## 8.2 触れ方や距離感への配慮

触れられることが苦手な方には事前説明と同意が不可欠。

---

# 第 9 条 研究・調査での権利(ヘルシンキ宣言)

## 9.1 研究参加の自由／拒否の自由

研究参加は完全に自由であり、障害の有無で差別されません。

## 9.2 本人の意思・不賛意を必ず確認する

引用:ヘルシンキ宣言

「同意能力が不十分でも、本人の意思・不賛意を最大限に尊重する」

---

# 第 10 条 質問・相談・意見表明の権利

不安、恐怖、疑問、希望は、どのような表現方法でも伝えてよく、  
医療者は尊重し丁寧に応じる義務があります。

---

## 付記(当院の責務)

当院は上記の権利を実現するため、以下を行います：

1. コミュニケーション支援ツールの整備(手話、点字、補助具等)
2. 意思決定支援スキルの職員研修
3. 合理的配慮ガイドラインの院内標準化
4. 障害特性・感覚過敏への配慮チェックリスト導入
5. 行動制限の最小化と透明性確保
6. 医療環境のバリアフリー化
7. 障害者権利条約に即した医療体制整備

# しょうがいのある人の けんり（かんたんばん）

## だれでも大切にされるけんり

しょうがいがあっても、あなたは  
だれよりも大切に、みんなと同じようにあつかわれます。

## 自分の気もちやねがいを つたえるけんり

話すことがむずかしくても、大事な気もちや「こうしたい」は、いろいろ  
な方法でつたえられます。

## つたえる方法を えらぶけんり

手話、筆談、きかい、タブレット、絵、カードなど、あなたがつたえやす  
い方法をえらべます。

## わかりやすい せつめいを 受けるけんり

あなたにあった言い方で、ゆっくりていねいに せつめいしてもらえます。

## 必要なサポートと 配りょを受けるけんり

からだ・こころ・感じ方に合わせて、必要な手助け（配りょ）をうけるこ  
とができます。

## むりな こうどうの 制限を されないけんり

むやみに しばったり、へやに とじこめたりしません。やむをえない時も、  
できるだけみじかく、安全にします。

## 家族や しえんする人といっしょに きめるけんり

大切なことは、家族やしえんの人といっしょに考えて、あなたの気もちが  
まんなかになるようにします。

知らないこと・心配なことを何でも聞けるけんり  
えらぶ時や不安な時は、スタッフにいつでも相談できます。